

令和2年3月10日

足立区立六月中学校
校長 塚原 洋殿

足立区立六月中学校
学校運営協議会
開かれた学校づくり協議会
会長 芦川一男

令和元年度 学校関係者評価書

1、はじめに

本評価書は期初に学校が作成した「平成31年度学校経営計画」及び期末に作成された「令和元年度学校経営計画・自己評価書」を基本書類として、足立区学力定着に関する総合調査、QU調査及び生徒、保護者、開かれた学校づくり協議会委員による評価アンケート調査などを参考にして、学校運営協議会、開かれた学校づくり協議会、評価部会にて以下の評価を行った。

2、重点取り組み事項 1) 学力向上

「足立区基礎学力定着調査」の本校生徒の通過率は目標58.0%に対し50.0%と8%低い結果であった。その原因を調べると

- ①「授業が理解できているか」という生徒へのアンケート調査では1学年の25%、2学年の28%が否定的に答えている。区の調査では授業が分かると答えた生徒は58%であった。
- ②また家庭で学習をしていない生徒は2年生で30%と高い数字である。区調査では宿題がなくても家で勉強をすると答えた生徒は56%であった。
- ③家庭学習ノート提出率は8割が提出し定着してきた。毎月のパーフェクト賞、年間パーフェクト賞を設けて全校で表彰する取り組みも行われている。持続可能な取り組みを評価したい。
- ④またGタイム、土テラ、チャレンジ講座、サマースクールなどの形で個別指導の補習が行われているが、一人一人に対し基礎学力を理解するまで根気よく指導することを今後も期待したい。

3、重点取り組み事項 2) 不登校・不適応対応

- ①不登校生徒の出現率は2%台前半と安定してきているのは、修学支援委員会による組織対応を毎週木曜、年40回実施し、SC、SSW、民生委員との連携を円滑に進めている努力の結果である。

- ②不適応対応の生徒についても修学支援委員会で取り組んでいる。一人一人のケースを検討し、家庭訪問を行うなど個別の対応を行っていることを注目していきたい。

4、重点取り組み事項 3) 生活指導

- ①いじめ行為があったことを知っていたとする生徒の割合が目標 10%以下に対し、結果は7%と3%少なかった。QUデータでも8.3%とほぼ同じ結果であった。「いじめ防止委員会」や「生徒会や学級での活動」の対策強化運動が少しずつ数字に表れていると評価したい。

- ②QUデータでは「学級生活不満足群」は15%の目標に対し今年20%と5%増えてしまったが、生徒アンケートでは学校生活が楽しいは95%と高い数字を示している。先生とコミュニケーションが取れていて何でも相談できること、友達と仲良くやっていること、部活や生徒会などの活動や学校の諸行事への参加等の生徒アンケート結果は高いスコアを示していることは注目に値する。

今後QUデータと生徒アンケートのデータを分析し生活指導に活用したいものである。

- ③自尊感情を持っていないと思う生徒の比率は20%以下の目標に対し、結果は19%であった。また自分がなりたい職業や希望については72%、区調査では74%が持っていると答えており、キャリア教育に全校で取り組む成果が出ていて評価したい。

5、学校から地域への情報発信と我々の課題

今年からホームページがガラリと変わり、沢山の写真が解説付きで載るようになった。普段の授業風景や土テラの補習授業、3年生の面接練習、ふれあいいきいきサロンなど学校生活の情報発信が一段と進んだことを評価したい。「地域の中の開かれた六月中学校」を保護者だけでなく地域の方々に理解してもらおう基本になると評価したい。

その上でPTA、コミュニティスクール、開かれた学校づくり協議会の3つの組織は情報を共有して六月中学の生徒のために、先生方のために何が出来るか、何をすべきかを考えなければならない。生徒一人一人のために「励まして祈る」ことを常に心に覚えていきたいものである。

最後に一言述べておきたい。新型コロナウイルスの感染拡大により令和2年3月2日から全国の学校が休校という事態が発生したため、この評価作業の会議開催などにも影響があった。

しかし本作業の重要性を認識し、関係各位の協力を得て無事に提出できたことを感謝したい。

以上